

観点 1	基礎・基本の定着
観点 2	主体的に学習に取り組む工夫
観点 3	内容の構成・配列・分量
観点 4	内容の表現・表記
観点 5	言語活動の充実

第 1 推薦	38・光村
第 2 推薦	2・東書

各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2・東書	観点 1	1 時間の学習の流れを示す（2～6 年）とともに、学習活動を示している。また、話し合う視点を示し、自分の考えを書く欄を 2 箇所設けている。 発問は、教材文の終わりに 2 つ記載している。
	観点 2	教材に入る前のページに問題意識をもたせるための写真や問いを示し、教材の終わりに問題解決的な学習を進めるためのステップを示している。問題解決的な学習を取り入れる教材は、目次においてマークで示している。また、学習したことが生活の場での体験につながるように、体験的な学習を促す教材を掲載し、学んだことを実生活で生かしたり深めたりすることを促す言葉がけを掲載している。
	観点 3	判型 AB，P 120～194。教材数は、1 年 34，2～6 年 35。 教科書を導入教材・本編教材・付録の 3 つで構成されている。 いじめを題材として扱った直接的教材と、いじめを直接扱わない間接的教材の 2 つを、1 つのユニットとして組み合わせた「いじめのない世界へ」を設けている。
	観点 4	マーク提示：「出会う・ふれ合う」：コミュニケーション活動による相互理解を深める学習 「つながる・ひろがる」：各教科等と関連づけた学習 「問題を見つけて考える」：問題解決的な学習 「いじめのない世界へ」：いじめを許さない心を育てることができる学習 「情報モラル」：情報モラルの学習をマークで示している。 キャラクター：「こころん」：ポイントになる発問と自分の生活を見つめる発問を示す。
	観点 5	巻頭の「道徳の学習を進めるために」の中に、話し合う活動を示し、「話し合いの約束」として、話し合いの留意点を示している。 巻末には、心に残った教材や友達の意見、感じたことや考えたことなどを記録する、振り返りのページを設けている。
11・学図	観点 1	学習活動を示すとともに、別冊「活動」で、教科書「読みもの」と合わせた使い方を示している。 発問は、別冊「活動」の中に、3 つ記載している。
	観点 2	問題解決的な学習については、別冊「活動」の中に発問の具体例を記載している。 別冊「活動」において役割演技の例を示し、自分だったらどのように行動するかを考えさせている。また、体験的な学習を取り入れる教材は、マークで示している。 別冊「活動」において、内容項目ごとに関連図書の紹介や自己の生き方を考えさせる読み物を掲載している。
	観点 3	判型（別冊判）AB（AB），P 122～158。教材数は、1 年 34，2～6 年 35。 「読みもの」と「活動」の 2 分冊で構成されている。 いじめという直接的な表現を多用することなく、日常生活で起こりうる問題から考えられる教材を選定している。
	観点 4	マーク提示：別冊「活動」において、学習活動のマークとして以下のものが示されている。 「考えよう」、「見つめよう」「アクティブ」
	観点 5	巻頭の「道徳の学習を始めよう」の中に、話し合いの状況を示している。また、別冊「活動」において、考えをまとめたり振り返ったりするページを設けている。
17・教出	観点 1	学習活動を示すとともに、「今の自分について」と「目標とがんばりたいこと」について書く欄を設けている。 発問は、冒頭の教材名の横と教材文の終わりに 5 つ記載している。

17・教出	観点2	問題解決的な学習については、「学びの手引き」の中に発問の具体例を記載している。 役割演技の例として、挿絵と共に発問を記載し、問題場面において、どうすればよいかを考えさせたり、心情を理解させたりしようとしている。また、体験的な学習を取り入れる教材は、目次でマークを示している。「学びの手引き」に自己の生き方を考えさせる言葉がけを掲載している。
	観点3	判型AB, P122～154。教材数1～2年19, 3～4年20, 5～6年22(複数時間扱いで構成されている) 年間を通してゆとりを持って授業展開ができるように構成されている。 いじめ問題を扱う教材には、重点的に扱うマークを使い、目次及び該当ページに示している。
	観点4	マーク提示:「いじめをなくす」は黄,「情報モラル」は青,「生命尊重」は赤と、色別のマークで分け、目次及び該当ページに示している。 「スキル」:モラルスキルトレーニング イラスト:児童の心の動きを子供のイラストで示している。
	観点5	巻頭の「〇年生の道徳の学習が始まるよ」の中に、話合いの意義や活動について示している。教材の終わりの「学びの手引き」の中には、話合いを促す発問を示している。 また、「一年間のどうとくの学習をふり返ろう」「家の人から」「先生から」のコメント欄を設けている。
	38・光村	観点1
観点2		問題解決学習を取り入れる教材には、教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを記載し、教材の後に学習のめあてや発問を記載している。教材文の中に挿絵とともに役割演技を促す発問を記載し、問題場面の後、どうすればよいかを考えさせようとしている。 教材の後に、関連図書の紹介や自己の生き方を考えさせる言葉がけを掲載している。
観点3		判型B5, P129～209。教材数1年34, 2～6年35 教材とコラムを組み合わせたユニットをおいている。 様々な内容項目からいじめ問題に結びつく教材とコラムを1つのユニットとして設けている。いじめ問題のユニットを学年の前半に位置付けている。
観点4		マーク提示:学校生活の実態に即して、4・5月, 6～9月, 10～12月, 1～3月のまとまりを色別のマークで示している。 キャラクター:「こころん」:疑問や考えるポイント 「きりりん」:学習したことを生活に広げる発問 イラスト:学習の助けとしてヒントや例等を子供のイラストで示している。
観点5		巻頭の「道徳の時間は」の中に、「考えよう」というキーワードを用いた学習活動の一環として、話合いの具体的な状況を示している。また、巻末に、「感想を表すときの言葉」のページを設け、自分の感じたことを伝えるための語彙を示している。(5・6年) 「学習のまとまり」ごとに、区切りのページを設け、「学びの記録」と共に、自分の学びの変化や学んだことが生かされたことを記入する、「まとめ」の欄を設けている。
116・日文	観点1	1時間の学習の流れを示す(全学年)とともに、学習活動を示している。また、別冊「道徳ノート」に、特に学びたいものに印をつける欄と「自分のこと」について書く欄を設けている。 発問は、冒頭の教材名の下と教材文の終わりに、キャラクターと共に記載している。
	観点2	問題解決学習を取り入れる教材には、問題解決的な学習の進め方について写真入りで説明し、学習のめあてや発問を記載するとともに、目次においてマークで示している。 「学習の手引き」において、写真を使って役割演技の方法を説明し、学習のめあてとともに発問を示している。また、体験的な学習を取り入れる教材は、目次等においてマークで示している。「見つめよう、いかそう」というコーナーで、自己の生き方について考えさせている。
	観点3	判型(別冊判)AB(B5), P129～209。教材数は、1年34, 2～6年35。 本冊と道徳ノートの2分冊で構成されている。学期を意識して教材配列されている。 いじめ防止をテーマとし、「公正, 公平, 社会正義」や「友情, 信頼」,「生命の尊重」などの内容項目の教材を1つのユニットとして設けている。いじめ防止のユニットは、「心のベンチ」と組み合わせ、学期に1回位置付けている。
	観点4	マーク提示:教材名の下に、学び方マークを使い、体験的な学習や問題解決的な学習、パソコンやインターネットを使って深める学習であることを示している。 キャラクター:「ココロウ」:疑問や考えるポイント 「はるひと」「あかね」「なおや」「りさ」:発問
	観点5	巻頭の「道徳の学び方」の中に、話合いの具体的な状況を示している。また、学習の手引きや「心のベンチ」の中に、話合いの流れを示している。 別冊「道徳ノート」に、学習の自己評価欄、巻末に、道徳の学習で心に残ったことなどを記入する、振り返りのページを設けている。また、毎時間のワークシート1ページを設け、自分の考え、友達を考え、学びのまとめを書く欄を設けている。

208・光文	観点1	1時間の学習の流れについて、「問いをもつ」「考える」「話し合う」「まとめる」の4つで示している。 学習活動を示すとともに、教科書の使い方や道徳ノートの例を示している。 発問は、冒頭の教材名の横、教材文の下段と終わりに7つ記載している。
	観点2	教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを記載するとともに、教材文の下段に発問を記載している。学習したことが生活の場での体験につながるように、体験的な学習を促す教材を掲載している。教材の後に、学んだことを実生活で生かしたり、深めたりすることを促す言葉がけを掲載している。
	観点3	判型A4変形、P158～194。教材数1年34、2～6年35。 各教科の学習時期と教材内容の時期が一致するよう配置されている。 いじめ防止について、直接的・間接的に考えられる教材とコラム「みんな仲良し楽しい学校」を発達段階に合わせて選定している。
	観点4	マーク提示：「まとめる」「ひろげる」：まとめや、広げ深める発問 「みんなでやってみよう！」：人間関係を豊かにするコラム 「情報モラル」：情報モラルを扱うマークで示している。 キャラクター：「みらいさん」「ゆたかさん」「トリー」「わんだ先生」：考えるためのポイントや考えを広めるための見方を示している。
	観点5	巻頭の「道徳の時間は、こんな時間です」の中の、学習の手順に、話し合う活動を提示し、話合いのポイントを示している。 巻末に、学習した日付け、教材番号、授業後の心の動き「心の矢印」や学びを記録する、振り返りの欄を設けている。また、学期末や年度末に、道徳で学んだことを振り返って記入する、「まとめ」の欄を設けている。
224・学研	観点1	1時間の学習の流れを示す（5・6年）とともに、学習活動を示している。また、「道徳の学習でがんばりたいこと」と「自分のこと」について書く欄を設けている。 発問は、教材文の終わりに2つ記載している。
	観点2	問題解決的な学習を取り入れる教材には、教材の後に、学習の道筋と発問を記載している。役割演技の方法について説明し、役割演技を促す発問によって自分ならどうするかを考えさせようとしている。教材の後に「つなげよう」「広げよう」等のコーナーを設け、学んだことを実生活で生かしたり、深めたりすることを促している。
	観点3	判型A4、P132～168。教材数1年34、2～6年35。 児童や地域・季節などの実態を踏まえ、ストーリー性のある配列がされている。 いじめを題材として扱った直接的教材と、いじめを直接扱わない間接的教材を選定している。
	観点4	マーク提示：最重点テーマと重点テーマをマークで示し、複数時間扱いで教材を選定している。「情報モラルの学習」や「発問」「自分や友達の考えを書く」「家の人と一緒に考える」活動について、マークで示している。
	観点5	巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の中の、学習の手順に、話し合う活動を提示し、話合いのポイントを示している。また、「学び方のページ」の“深めよう”の中に「活動」の欄を設け、話合いのポイントを示している。 巻末に、道徳の学習を通して、心に残ったことや話などを「心のたから物」として記入し、1年間の学びを振り返るページを設けている。
232・廣あかつき	観点1	学習活動を示している。また、別冊「道徳ノート」に、「自分のこと」について書く欄を設けている。 発問は、教材文の終わりと別冊「道徳ノート」の中に5つ記載している。
	観点2	問題解決的な学習については、教材の終わりに学習のめあてや具体的な発問を記載している。教材の後に、役割演技を促す具体的な発問を記載している。役割演技によって、登場人物の心情を感じ取らせようとしている。また、学んだことを実生活で生かしたり、深めたりすることを促す言葉がけが掲載されている。
	観点3	判型（別冊判）AB（AB）、P118～170。教材数1年34、2～6年35。 構成内容の異なる本冊と別冊の2分冊で構成されている。 いじめを題材として扱った直接的教材と、いじめを直接扱わない間接的教材を選定している。
	観点4	マーク提示：教材と関連して、学びを深めるための特集ページを葉っぱのマークで示している。
	観点5	巻頭の「道徳の時間はこんな時間」の中に、学習全体でねらいとする活動や内容を紹介し、話合いの意義やポイントを示している。 別冊「道徳ノート」に、考えたり振り返ったりしたことを書く欄や、巻末に、心に残っている授業などについて記録するページを設けている。また、自己評価をしたり、内容項目ごとの振り返りをしたりする折り込み「心のおしり」を設けている。

※ すべての発行者について調査研究を行い、番号順に記載する。